平成 24 年度　岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	環境計画学	担当教員	清水隆宏			
学年学科	２年次　建設工学専攻		後期	選択	２単位	
学習・教育目標	（Ｄ－２　設計・システム）１００％		JABEE 基準１（１）:（ｄ）			

授業の目標と期待される効果：
建設物の環境計画に関わる広い知識の習得を目的とし、特に、持続可能な地域社会を目指したヨーロッパの環境対策に注目する。ヨーロッパにおける環境対策を、文化・風土の視点を交えて学び、日本との相違点を知ることにより、環境計画に携わる技術者としての知識理解の一助となることを期待する。具体的な目標は以下の通りである。

(1) 省エネルギー対策についての概念およびその手法の習得。
(2) 歴史に見る持続可能な社会システムとその変遷。
(3) ゴミの軽減および再利用手法の習得。
(4) 持続可能な交通計画・土地利用計画についての概念およびその手法の習得。
(5) 持続可能な農業についての概念およびその手法の習得。

成績評価の方法：
調べ学習（資料提出）200 点、プレゼンテーション評価 100 点とし、これらの総得点率（%）によって成績評価を行なう。

達成度評価の基準：以下の各項目に対し、6 割以上の正確な知識を有していること。
なお、成績評価への重みは(1)：(2)：(3)：(4)：(5)＝1：1：1：1：2 とする。

(1) 省エネルギー対策についてその概念、手法をほぼ正確（６割以上）に理解している。
(2) 歴史に見る持続可能な社会システムとその変遷について、ほぼ正確（６割以上）に理解している。
(3) ゴミの軽減および再利用の手法をほぼ正確（６割以上）に理解している。
(4) 持続可能な都市計画についてその概念、手法をほぼ正確（６割以上）に理解している。
(5) プレゼンテーション能力を発揮し、内容が概ね理解できる程度に説明できる。

授業の進め方とアドバイス：前半では、ヨーロッパにおける環境対策の事例や、主に日本における歴史に見る持続可能な社会システムとその変遷を紹介する。学生は並行して様々な環境先進国や伝統的な環境配慮の事例について調べ学習を行い、理解を深めること。後半では、海外と日本における環境対策への事例、過去と現在における環境配慮への姿勢の比較を行う。最終的に、環境計画の概念の成り立ちや創意工夫などをまとめ、発表できるようにすること。

教科書および参考書：
参考書：スウェーデンの持続可能なまちづくり（高見幸子監訳・編著　新評論）

授業の概要と予定：	教室外学修
第　１回：スウェーデンにおける環境対策の枠組み	ナチュラルステップとエココミューンについてまとめる。
第　２回：再生可能なエネルギーへの転換	他国の新エネルギーの活用の事例を調べる。
第　３回：環境に配慮した交通施策	他国の環境に配慮した交通施策の事例について調べる。
第　４回：環境配慮型住宅	他国の環境配慮型住宅の事例について調べる。
第　５回：自給自足の推進と持続可能な農業	他国の持続可能な農業を目指した取り組みを調べる。
第　６回：廃棄物の軽減と再利用	他国のゴミの軽減や再利用に関する取り組みを調べる。
第　７回：持続可能な土地利用と都市計画	コンパクトシティとニューアーバニズムについて調べる。
第　８回：環境配慮型の都市・建築［日本での事例紹介］	日本における一般的な環境への取り組みについて調べる。
第　９回：環境配慮型の住宅［日本での事例紹介］	日本の環境配慮型住宅の事例について調べる。
第１０回：廃棄物の軽減と再利用［日本での事例紹介］	日本のゴミの軽減や再利用に関する取り組みを調べる
第１１回：日本の伝統建築における環境設計（１）	日本の伝統建築にみられる気候との調和など、環境計画的な概念について調べる。
第１２回：日本の伝統建築における環境設計（２）	日本庭園にみられる環境計画的な思想について調べる。
第１３回：日本の伝統建築の特性［解体・移築］	解体・移築による再利用が可能な日本の伝統建築について考える。
第１４回：建築における環境計画の地域特性	建築における環境計画の取組み方について日本と他国の違いを調べる。
第１５回：発表	他者の意見を聞き、自分の考えとの違いなどをまとめる。
第１６回：フォローアップ（発表に対する講評、評価方法の説明）	―